

宇部高専同窓会の皆さん、お元気でしょうか。  
わたしは電気工学科8期卒業の三吉不二夫ともうします。

卒業は8期ですが、入学時は2期という高専在学期間の最長不倒日本記録を樹立しました。この記録は永遠に破られることはないだろうといわれている大記録です。（誰が知っているかは知りませんが）

このたびこのHPへ載せる近況などを書いてほしいということでしたので、いまもっとも力を入れていることを書かせていただきます。

わたしは在学中から小説を書いてきましたが、いまはおもに古代史の解明に取り組んだ小説を書いています。古代史の解明というと、ほとんどの人は邪馬台国や卑弥呼の謎についてのことを思い浮かべるだろうと思います。もちろんそれも含まれますが、古代史の謎にはもっと大きな根本的なものがあります。それは日本国という国のルーツがわからないという謎です。

「日本国のルーツだって？ なんだ、それ？」

と多くの方は首をかしげると思います。この一言を聞いて、「ああ、そのことか」とうなずかれる方がいれば、その人は相当な知識人だといえます。この言葉がぴんとこない人に、わたしはこう聞いてみたいと思います。

「あなたは、いま住んでいる日本国という国が、いつ、誰が天皇だったときに、どんな経過を経て、倭国から日本国へと変わったのか知っていますか。なぜ倭国から日本国へと国号を変更しなければならなかったのでしょうか」と。

この問いに答えられる人は一人もいないはずです。なぜならどんな学者もその真相を解明していないからです。なぜそんなことがわからないのでしょうか。その理由は、それが書かれているはずの『日本書紀』に、そのときの状況がまったく書かれていないからです。

ではなぜ『日本書紀』の編集者は、そんな重大な事件のことをなにひとつ書かなかったのでしょうか。書けばなにかつごうの悪いことがあったのでしょうか。

じつはそれがよくわかっていないのです。なぜ『日本書紀』は、「倭国」から「日本国」へ国号を変更したときのこと——日本史上最大の事件のことを書かなかったのでしょうか。これこそ、古代史の最大の謎といえます。卑弥呼や邪馬台国の謎などは、これにくらべれば微々たるものです。

その謎を、このわたしが解き明かしました。たとえば、「なにをこの大ボラふきが！」と、あきれられ、嘲笑されることだと思えます。でもこれはほんとうのことなのです。

歴史の真相は、誰の目にもつくようなところに隠されていました。それをたまたまわたしが見つただけなのです。重大な事件の真相は、記紀（『日本書紀』と『古事記』の総称）の昔話の中にひっそりと隠されていたのです。

それを発見したわたしは、なんとかしてこの事実を日本中の国民に伝えなければと思いました。そしてそれをおもしろく楽しい小説にして、歴史が苦手な人にも喜んで読んでもらえるようにしよう、と考えました。それがいまから十数年前のことです。

それからいろんなことがあったのですが、途中経過は省略させていただくことにして、話は現在に飛びます。

いまわたしが書いている最新作は「日本のクレオパトラ」という作品です。

日本の古代にも、クレオパトラに匹敵するような超美人の女傑が存在しました。この事実を学者は誰も知りません。知らないというより、記紀の昔話の中に隠して書いてあるため、古代人のユーモアが理解できない学者には見つけることができないのです。

この小説を出版してもらうため、いろんな賞に応募しました。しかしどうしても出版化してくれる賞を受賞できません。なぜこれが賞に選ばれないのか、考えてみました。受賞した作品にくらべて、わたしのものがそう劣っているとは思えません。そして知り合いになった多くの出版関係の人に聞いてみても、わたしの書いたものの評価は高いのです。さらに社会的なインパクトの強さでは群を抜いているという自信があります。それなのになぜ賞に選ばれないのだろうか、考えました。

そんなときある出来事があり、わたしの名前は出版界でブラックリストに載っているのではないかという疑いが起こってきました。わたしの書いている小説が、学者の唱えている定説を根本的に崩壊させるからです。彼らの説の大前提となっている部分をわたしが崩してしまったのです。これは学者にとっては死活問題です。そこで彼らはおもだった出版社に圧力をかけ、わたしの書いたものに出版化できる賞を受賞させないよう徹底させているような気がしはじめたのです。

わたしの被害妄想だといわれるかもしれませんが、しかし、どんなに社会的に話題になる作品を書こうが、いえいえ、社会的な話題性が大きいからこそ、出版社がわたしの作品を受け入れてくれないのです。それをこの十数年の間にいやというほど経験してきました。その話は、いまは省略することにします。

こういう状況を打開するにはどうすればいいだろうか、わたしが出した結論は、インターネットをつうじてわたしの作品を多くの人に読んでもらうことでした。インターネットの世界でわたしの作品が話題になれば、出版を阻止することはできなくなるはずですから。わたしの目的は真実の歴史を日本国民に知らせたいということですから、この作品の内容が知れわたってくれさえすればいいのです。

少し長いひとりごとになってしまいましたが、わたしがお願いしたいことは、この作品「日本のクレオパトラ」をぜひ読んでほしいということです。いまわたしのHPで、全編を公開しています。わたしのホームページに入るには、「三吉不二夫」と打って検索すると「三吉不二夫公式ホームページ」と出てきますから、そこをクリックすればトップページが開きます。すると美しいお嬢さんが「日本のクレオパトラ」の入り口へ案内してくれます。そこをクリックすると本文へ入れますので、どうぞゆっくり読んでください。

なおこのHPには「東京湾大地震」など、ほかの作品も公開しています。これらの作品については、またいずれ別の機会にお話ししたいと思います。

長くなりましたので今回はここまでにしておきます。これから少しずついろいろな話をしていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。日本の国民のためにと、がんばっている卒業生がいることを、時には思い出してほしいと願っています。

以上

(2/2)